

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童デイサービスハートぽっぽEAST		R7 年 3 月 18 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	0	出席者の車椅子の台数、お子さんの障がい特性を考慮し、配置、活動スペースを日々検討している。	イベントなど、活動内容によっては室内の備品の移動が必要になっている。座位保持椅子、車椅子置をけるスペースを検討。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7	0		規定は守っているが、活動内容や二人介助など支援の仕方によっては増員する必要があるため、ボランティア等を集められるルートを作っていく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	0	車椅子が多いので、バリアフリー化は行っている。	それぞれの障がい特性に応じた情報伝達を検討しながら、分かりやすく安心して過ごせる環境を整えていく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	0	活動終了後、毎日清掃、消毒を行っている。	活動内容によって、備品の配置を変える必要がある
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	0	静養室は用意している。	場合によっては、もう一部屋必要な時もある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7	0	週1回のミーティングの他にも必要とあれば随時検討会を開いている。	今後も職員間のコミュニケーションを大切に同じ方向を向いた支援を目指していく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	ミーティングにて周知。ご意見に対する意見交換を実施している。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7	0	全員でのミーティングで行っている。個別に面談での聞き取りも行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	7		現在検討中
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7	0	全員が外部研修、内部研修に参加できるように調整をしている。	
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	0	ホームページにて公表している。	内容を適切に更新していく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	0	成長と共に変化するニーズの把握に努めている。	保護者との情報共有を大切に、他機関とも連携していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7	0	作成者の主観に偏らないように、いろんな職員からの情報を収集し、作成している。	さらに関係機関との情報共有もしていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7	0	ミーティングにて情報共有。	個々の支援が統一されていない場合は、見直す機会を設け、話し合って解決している。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	0		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7	0		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	0	チームで立案している。	

な 支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7	0	下校時間が遅く、活動時間が短い日は同じプログラムになりがちなので、毎週のミーティングで意見を出し合いプログラムを決めている。	固定化はしていないが、ローテーションで回している状態なので、活動幅を広げるために検討していく。そのためには内部だけでなく、外部の専門職の方の意見を聞いたり、他事業所との交流の中で意見交換をしながら取り入れていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7	0	障がい特性を理解した上で、ご本人が自分で出きること、支援することを見極め、何よりも本人が楽しんでもらえるような活動を、個別、集団活動を組み合わせて計画を作成している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7	0	当日の活動の確認、お子さんの情報、各職員からの意見、報告、事務連絡等を毎日行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	0	送迎後の申し送り、情報共有、一日の振り返り、意見交換を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	0	記録の確認は責任者が行っている。不備な点はその都度指導している。	「記録のとり意味、書き方」の研修に参加。他の職員に周知した。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7	0	実施している。	モニタリングの際は児発達支援管理責任者だけでなく支援に携わっている職員も参加する。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7	0		基本役割は理解し遂行しているが、活動内容等、善処すべく日々検討を重ねている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7	0	常に自分の意志で決定できるようにしている。	非言語のお子さんにも自分なりの表現ができるように、いろんな意思決定手段を検討して取り入れている。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	0	参加している。	お子さん活動の様子を自由に見学いただけるように、お知らせしている。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	0		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7	0	連携が取れている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	0	受け入れ前の情報は得られている。 就学後も情報交換をしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	0		情報の提供は行っているが、十分とはいえない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	0	定期的な研修に参加している。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	7	0		年に数回スポーツイベントの交流はあるがさらに増やしていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7	0	積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7	0	お子さんに変化が感じられた際は、こちらから連絡をさせていただき情報を得ている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	0	問題を抱えている保護者には面談の機会を増やしている。	保護者が情報共有できる場として、サロンを不定期に開催。ワークショップや各種イベントを実施。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	0	契約時、面談時に説明を行っている。 改定の際にも速やかにお知らせしている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	0		

保 護 者 へ の 説 明 等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	0		継続していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	0	保護者の子育てに関する不安や負担を把握し、保護者支援の課題を明らかにするように務めている。 自分で解決できない時は専門家につないだりすることもある。	対応に不十分なところは善処していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7	0	・年に1回保護者会開催 ・「サロン・ド・ぼっぼ」 土曜日月1回開催（不定期） ご利用者、ご家族、卒業生、地域の 方々、関係機関との交流会実施。 ・きょうだい児支援団体との連携	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7	0	苦情窓口、担当者を周知。 気になることがあったらすぐに連絡していただくように周知。 速やかに対応、解決に向けて努力している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7	0	ぼっぼ新聞で活動内容、行事予定、事務連絡等のお知らせをしている。	Instagramも始め、より素早く情報の発信ができるようになった。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7	0	書類の保管の仕方や個人情報守秘義務等、徹底周知をしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7	0	言語、非言語のコミュニケーション能力を職員が学び、子どもと向き合う。 代読、代筆、手話、サイン。コミュニケーションボード、スイッチなどの活用しているものもあるが、さらに手段を学び支援の向上をはかる。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	0	地域交流の場としてサロンを不定期にオープンしている。	
非 常 時 等 の 対 応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	0	契約時、面談時に周知している。訓練は年間通して計画的に実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	0	BCPは策定している。 訓練は実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	0	マニュアルを作成している。	モニタリングで常に状況の把握をしていく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7	0	対応をしている。	モニタリングで常に状況の把握をしていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	0	様々な状況を想定し訓練をしている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7	0	ミーティングで報告、再発防止の検討を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7	0	外部研修に参加し、ミーティングで報告。内部研修を定期的に実施している。 委員会の開催。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	0	やむを得ず必要な場合は契約時、面談時に説明し、個別支援計画にも記載している。	